

「知らなかった」から 「ともに考える」へ



行政職員や支援者のみなさんと共に、
医療的ケア児者とその家族が
安心して暮らせる地域づくりを
進めていきませんか

2025 年

日時

8月18日 月

13:30~16:30

会場

グランシップ 10階

ケアルーム併設

(東静岡駅徒歩3分) 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号

オンライン併用(ハイブリッド形式)

定員

会場 100名+オンライン配信/録画視聴可

主催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 共催：静岡県、静岡福祉大学

協力：一般社団法人みらいTALK、SHINE(静岡障害児等防災ネットワーク)、静岡県重症心身障害児(者)を守る会、バクバクの会、なないろの会、
静岡市肢体不自由児保護者家族の会ハナソ、静岡市静岡手をつなぐ育成会、静岡DWAT(静岡県災害派遣福祉チーム)(順不同)

開催目的

医療的ケアが必要な子どもや成人（以下、医ケア児者）とそこご家族は、日常の暮らしの中で多くの不安や孤立感を抱えています。最近の調査では、6割を超える方々が「孤独を感じる」と答え、必要な支援情報にたどり着けずに困難を抱えている現状が浮かび上がりました。しかし、医ケア児者の支援は決して「特別な」ことではありません。私たち一人ひとりが暮らす地域で、共に考え、共に支えるべき大切なテーマです。このフォーラムでは、当事者やご家族の声、地域の実践事例を通じて、「知らなかった」から「ともに考える」へと、一歩を踏み出す場をつくります。

PROGRAM

13:30～13:35 開会あいさつ

13:35～14:05

基調講演「“知らなかった”から“ともに考える”へ — 医療的ケア児者支援の第一歩」

浜松市医療的ケア児等相談支援センター長 大木 茂 氏

14:05～14:35

実践報告「当事者とともに進めるまちづくり — 飛騨市における医療的ケア児者支援の実践」

岐阜県飛騨市市民福祉部次長兼総合福祉課長 都竹 信也 氏

14:35～14:45

休憩

14:45～16:30

パネルディスカッション

コーディネーター：静岡福祉大学 特任教授 山本 雅章 氏

当事者・家族①早川さん 当事者・家族②漆畑さん 当事者・家族③本山さん
支援者（認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 事務局次長 本田 氏）
市町行政（長泉町福祉保険課 参事 加藤 氏）

PROFILE 登壇者プロフィール



浜松市
医療的ケア児等
相談支援センター長
大木 茂 氏

浜松市医療的ケア児等相談支援センター長として、医療的ケアが必要な子どもやその家族を取り巻く支援体制の構築に尽力。医療・福祉・教育の領域をつなぐコーディネートの実践を重ね、地域における包括的支援のモデルづくりに取り組んできました。現場の声を丁寧にすくい上げる姿勢と制度活用への的確な視点により、多くの自治体や関係機関との協働も積極的に行っています。



岐阜県飛騨市
市民福祉部次長
兼総合福祉課長
都竹 信也 氏

岐阜県飛騨市は、人口約2万人の小規模自治体です。「現場重視・個別対応」を基本に、医療的ケアが必要な方への支援にも力を入れています。地域の支援リソースも限られる中、当事者の自助の意識向上と自助への支援にも着眼しつつ、レスパイト、災害時の動き等当事者とともに考えながら、柔軟な発想で政策を立てて対応しています。また、バリアフリートイレの充実や障がい者支援アプリによる情報取得手段の向上など当事者の地域生活の質向上に目を配り取り組んでいます。



静岡福祉大学
特任教授
山本 雅章 氏

地域福祉の実践と政策研究の両面から、障害児・医療的ケア児支援や包括的支援体制のあり方を探求。自治体職員・支援者への研修や制度設計のアドバイザーも多数務め、福祉と地域をつなぐ実践的な視座を提供し続けています。今回のフォーラムでは、当事者や実践者の声を引き出し、共に考える場づくりのコーディネーターとしてご登壇いただきます。

参加
申込み

右記QRコードの専用フォーム、
または下記URLよりお申込みください。
<https://x.gd/PNDCT>



お問合せ

社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会
生活支援部 権利擁護課（海野・出口）

TEL:054-254-5237 Email:kenriyougo@shizuoka-wel.jp

